



開場を待つ多くの市民

中津市で初めての室内演奏会
陸自第4音楽隊巡回演奏会を支援

十月七日(金)、中津市で初めての室内演奏会となる「第四音楽隊巡回演奏会in中津」第四師団主催の開催を支援しました。

会場となった中津文化会館には学校帰りの高校生が多く訪れ、開演前にステージで実施されたブレコンサートは生徒達の活気に満ちた笑顔や拍手に包まれていました。

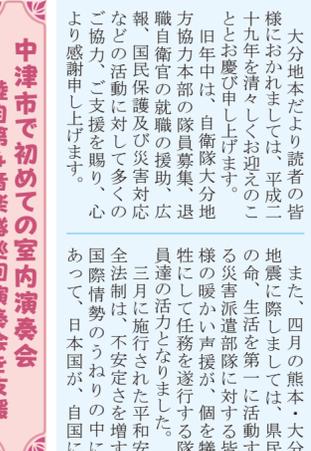
演奏会は隊長 入江和也二等陸尉指揮による軽快なマチに始まり、第一部終盤には、黒田官兵衛ゆかりの地である中津にちなんで、昨年のNHK大河ドラマの主題歌である「軍師官兵衛」が演奏されました。

第二部は、開始から二曲続けて中津北高校吹奏楽部との合同演奏が実施されました。演奏後の学生へのインタビューでは、部長の藤岡優香さんが「隊員の、音色の格の違いにビックリしたけど、一緒に演奏できて本当に楽しかった」と語りました。

後半には、地域にちな



中津北高校吹奏楽部との合同演奏



自衛隊大分地方協力本部長 一等陸佐 渡辺 辰悟

ごあいさつ

大分地本だより読者の皆様におかれましては、平成二十九年を清々しくお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、自衛隊大分地方協力本部の隊員募集、退職、国民保護及び災害対応などの活動に対して多くのご協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

また、四月の熊本・大分地震に際しましては、県民の命・生活を第一に活動する災害派遣部隊に対する皆様の暖かい声援が、個性に任せて任務を遂行する隊員達の活力となりました。

三月に施行された平和安全法制は、不安定を増す国際情勢のうねりの中にあって、日本国が、自国に

対する脅威を未然に防ぎ、領土・領空・領海、そして国民の生命と財産を守るとともに、国際社会の平和と安定に積極的に貢献するため、自衛隊は今、新たな法的根拠を得て、陸海空自衛隊の新たな体制を構築しつつ、日々厳しい訓練や警戒監視任務を遂行しています。

大分地方協力本部は、皆様と自衛隊の架け橋として、国に対してさらに多くの皆様と理解いただけるよう、人と人との繋がりを大切に各種業務を進めてまいりますので、引き続きのご支援、ご協力をよりよくお願い申し上げます。



大分地本だより

んで演歌歌手川中美幸さんの代表曲である「豊後水道」を隊員が熱唱、続いて演奏された「情熱大陸」では、五名のパカッションがアツプテンポを刻む中、トロンボーンやトランペットのソロが入る露の多様な見せ場を披露して会場を沸かせました。

ファイナーには、中津



会場と一体となったファイナー「花は咲く」の合演

卒業生の自衛隊への入隊実績に対する、十一月九日(水) 大分高等学校小山康直校長に大分地本長が伝達、贈呈しました。

贈呈式には、大分地本にも同席して花を添え、贈呈終了後は懐かしい昔話で盛り上がる和やかな式となりました。

一等空曹(写真右から二人目)は、大分高校を担当する広報官であり、母

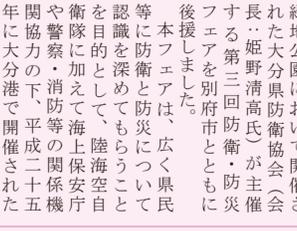
大分高等学校に西部方面総監より感謝状
同校卒業生の地本部長四名が同席

卒業生の自衛隊への入隊実績に対する、十一月九日(水) 大分高等学校小山康直校長に大分地本長が伝達、贈呈しました。

贈呈式には、大分地本にも同席して花を添え、贈呈終了後は懐かしい昔話で盛り上がる和やかな式となりました。

一等空曹(写真右から二人目)は、大分高校を担当する広報官であり、母

北高校吹奏楽部員が、再度ステージに上がり、会場を盛り上げた。会場には、大合唱が響き渡り、涙を流す人もおられ、会場からは「是非また中津の演奏会を開催して欲しい」との声も聞かれました。



会場と一体となったファイナー「花は咲く」の合演

自衛隊大分地方協力本部は、七月二十日(土)及び三十一日(日)、別府国際公園港及び上リヶ浜緑地公園において開催された大分県防衛協会(会長・姫野清高氏)が主催する第三回防衛・防災フェアを別府市とともに後援しました。

本フェアは、広く県民等に防衛と防災について認識を深めてもらうことを目的として、陸海空自衛隊に加え海上保安庁や警察、消防等の関係機関協力の下、平成二十五年に大分港で開催されたのが始まりです。

今回は、海上自衛隊護衛艦「じんごう」(艦長 衛藤 健一)が来港、その他佐世保地方総監部募集支援係(佐世保) 航空自衛隊第七高射隊(築城)、陸上自衛隊西部方面輸送隊(健軍)、第四後方支援連隊(福岡)

同校OBの部員4名も贈呈式に同席

大分地本は、ハイスクールのクルーターとして臨時勤務してくれた大分県出身隊員の協力を得て、七月に募集ポスターを作成し、本県及び各地域事務所等に配布するとともに地本ホームページに掲載しました。

大変好評につき、再度十月に第四十一普通科連隊の協力を得て、募集ポスターを作成しましたので紹介いたします。

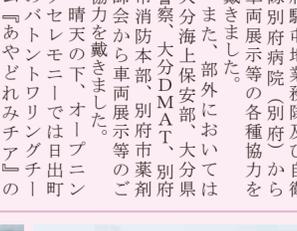
第三回防衛・防災フェア

別府市で盛大に開催

自衛隊大分地方協力本部は、七月二十日(土)及び三十一日(日)、別府国際公園港及び上リヶ浜緑地公園において開催された大分県防衛協会(会長・姫野清高氏)が主催する第三回防衛・防災フェアを別府市とともに後援しました。

本フェアは、広く県民等に防衛と防災について認識を深めてもらうことを目的として、陸海空自衛隊に加え海上保安庁や警察、消防等の関係機関協力の下、平成二十五年に大分港で開催されたのが始まりです。

今回は、海上自衛隊護衛艦「じんごう」(艦長 衛藤 健一)が来港、その他佐世保地方総監部募集支援係(佐世保) 航空自衛隊第七高射隊(築城)、陸上自衛隊西部方面輸送隊(健軍)、第四後方支援連隊(福岡)



セレモニーでダンスを披露する児童

近感じて戴くとともに、認識を新たにされた様子が伺えて、意義ある行事となりました。

募集広告に 県出身隊員協力

大分地本は、ハイスクールのクルーターとして臨時勤務してくれた大分県出身隊員の協力を得て、七月に募集ポスターを作成し、本県及び各地域事務所等に配布するとともに地本ホームページに掲載しました。

大変好評につき、再度十月に第四十一普通科連隊の協力を得て、募集ポスターを作成しましたので紹介いたします。



護衛艦に乗艦するべっぴん



セレモニーでダンスを披露する児童

重松 隼人 陸士長 (中津市出身・中津北高校) 第41普通科連隊 第4中隊(別府駐)

三浦 世莉奈 陸士長 (大分市出身・大分東高校) 第112特科大隊 本部管理中隊(湯布院駐)

上野 真琴 1等空士 (大分市出身・情報科学高校) 第8航空団 整備補給群 検査隊(築城基地)

吉松 佑将 陸士長 (宇佐市出身・柳ヶ浦高校) 第41普通科連隊 第4中隊(別府駐)

嶋崎 連 1等陸士 (豊後高田市出身・高田高校) 共に第41普通科連隊 第3中隊(別府駐)

(写真:左から)

県内各地で採用試験

九月十七日、海上自衛隊佐伯六ヶ所において、一般曹候補生一次試験及び自衛官候補生男子の採用試験を実施しました。

続く二十二日に航空学生、翌二十三日には自衛官候補生女子の採用試験を県総合社会福祉会館で行いました。十月十五日には、大分商工会議所において防衛医科大学看護学科学学生試験、二十九日・三十日の両日には防衛医科大学校予備校大分校で実施しました。また十一月五日・六日の両日、別府豊原荘において防衛大学校学生試験を実施しました。



両日共に大盛況の会場



自候生試験(大分商工会議所)



自候生試験(大分商工会議所)

この時は、時差十二時間の壁等により、しばしば徹夜での情報発信に苦悶した。興味は晩飯と「金をかけない釣り」だそうだが、金をかけてないだけに、昨年は一匹も釣れなかったらしい。

家族は、妻と娘・息子の四人。なんと奥さんは高校の同級生で、高一から交際しており、二十三歳で結婚、現在に至っている。

「魚は釣れないが、妻の一本釣りは、お見事な限りである。大分地本の松方私塾は、夏でもお湯割りの芋焼酎を肴も妻と語り合っているだろう。

県事へ出国報告時の写真

自衛官募集中!!



7.25 「南大分を守る」活動支援 (南大分スポーツパーク)



8.4 募集対象者部隊研修支援 (空自 築城基地)



8.7 SH-60ヘリコプター体験搭乗 (海自 大村航空基地)



9.23 大分県議会防衛議員連盟への防衛白書説明 (大分県庁)



平成28年下半年期



10.2 第3掃海隊入港歓迎式 (別府国際観光港)



11.16 第43掃海隊出港支援 (別府国際観光港)



11.18 大分市立西の台小学校保護者会 部隊研修支援 (別府駐屯地)



11.27 「みんなの防災+ソナエ」支援 (イオンモール三光)



民間から予備自衛官へ

以前は「九州一古い」とか「なんかカビ臭そう」と等と囁かれていた旧事務所から一新、城下町の風情漂う竹田町に移転して早二年が過ぎました。

竹田市と豊後大野市を担当し、主に自衛官等の募集と各種広報活動を行っているのが我々竹田地域事務所であり、木津義行事務所長以下四名で日々業務に邁進しています。

「さいつて行きよー」 「がんばりよー」と大分自由日付で海自対潜評価隊(横須賀基地)自分評長から着任し、日々、自衛官募集に奮闘・努力し、格闘中である。

本人は、別府市出身で、浜脇小・中、高校は別府鶴見丘、同級生の方の薦めを受け、ぜひお付き合いを、とのこと。

江田島卒業後、世界一周遠洋航海を経て潜水艦乗員となり潜水艦、護衛艦、音響測定艦に乗り組み「RIMPAC」等海外での米国の共同



竹田地域事務所紹介

事務所の近くには竹田高校と竹田南高校があり、以前の事務所にはなかった若者たちの賑わいがあります。私たちが今後も変わらぬ足で稼働を継続し、募集相談員や家族会員の方々との連携を密にし、またイベントを通じて育てる各種広報活動に努めてまいります。どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。

部員紹介

二等海佐 わたなべ 渡邊 泰光 (別府市出身(52歳) 募集課長)

「さいつて行きよー」 「がんばりよー」と大分自由日付で海自対潜評価隊(横須賀基地)自分評長から着任し、日々、自衛官募集に奮闘・努力し、格闘中である。

本人は、別府市出身で、浜脇小・中、高校は別府鶴見丘、同級生の方の薦めを受け、ぜひお付き合いを、とのこと。

江田島卒業後、世界一周遠洋航海を経て潜水艦乗員となり潜水艦、護衛艦、音響測定艦に乗り組み「RIMPAC」等海外での米国の共同

部員紹介

一等陸尉 しゅう 首藤 洋治 (別府市出身(52歳) 別府援護室長)

八月一日付で第四十一普通科連隊(別府駐)から着任。日々、退職予定自衛官の再就職援助に努めています。昭和五十八年に入隊し、第四十一普通科連隊で小銃科として自衛隊デビュー。平成五年に第十普通科連隊(東千歳駐)に転動して六年間、北の大地を駆け巡った。またこの間、銃剣道の選手として全日本の大会にも出場。その後、再び別府駐屯地に赴任。平成十九年に幹部に昇任。平成二十七年には南スーダン国際平和協力維持活動に参加。広報幹部として半年間にわたり勤務した。



県事へ出国報告時の写真



ミニ制服を着用して基本教練を体験する子供達

子供たちが基本教練等を体験!
「おおいだわくわくパークランド」に参加

十一月十九日(土)、大分市の竹町下町広場において、社団法人大分青年会議所が主催する子供職業体験企画「第五回おおいだわくわくパークランド」に参加しました。

今年の体験のメインは主催者から是非にとの要望があった「基本教練」。

約三分のローテーションで次々と「自衛隊のお仕事」体験に訪れた子供達に、まずは大分地本広報渉外室及び大分募集案内所に勤務する部員六名が一列に基本教練を展示しました。その後、ミニ制服を着用した子供達に「自衛隊のお仕事」体験に訪れた子供達に、まずは大分地本広報渉外室及び大分募集案内所に勤務する部員六名が一列に基本教練を展示しました。その後、ミニ制服を着用した子供達に「自衛隊のお仕事」体験に訪れた子供達に、まずは大分地本広報渉外室及び大分募集案内所に勤務する部員六名が一列に基本教練を展示しました。

バジエロ体験試乗に大興奮!
「さいき交通安全フェスタ」開催を支援

佐伯地域事務所は、十月三十日(日)、佐伯自動車学校内で開催された「さいき交通安全フェスタ」に広報渉外室と連携して初めて参加し、広報ブースを開設するとともに、自動車学校内の教習コースを使用して小型トラック(バジエロ)の体験試乗を行いました。

本イベントは、県、佐伯市等が後援するとともに、市内に所在する中学校や全ての高校が協力していることから、会場は大勢の家族連れや生徒らで訪れて活気に満ちていました。



ヘルメットを被って急ぎ乗車する子供達

地本ブースにも大勢の来場者が訪れて体験試乗等を行っていました。中でもバジエロの体験試乗に子供達は興味津々。

冒険の挨拶で姫野清高大分県防衛協会会長が「防衛研究所が五名の研究員を派遣する講座は全国的にも初めて聞いています。私達国民は、我が国周辺の情勢に目を向けるべき」と本講座の意義を説かれました。

予備自衛官より
指定職務の訓練開始

平成二十八年度から、各予備自衛官に指定されている職務に対する訓練が開始され、年周五日間の招集訓練期間中の二日間が当てられました。

予備自衛官の職務は、航空自衛隊隊域基地プレ航空祭に約百名の募集対象者が就職援助協力者を引率・案内しました。

航空自衛隊隊域基地プレ航空祭に約百名を招待

大分地域援護センター、大分募集案内所及び別府・宇佐・日田各地域事務所は、十一月二十六日(土)、航空自衛隊隊域基地プレ航空祭に約百名の募集対象者が就職援助協力者を引率・案内しました。

この日は、春日和の絶好の天気にも恵まれ、機動飛行で観客の頭上を轟音とともに駆け抜けるF2戦闘機の姿が、青空に見事に映り合っていました。高層を飛ぶF2戦闘機は、観客の頭上を駆け抜ける最高天候に恵まれたプレ航空祭。

地震発生! 直ちに避難!
「杵築地区防災フェア2016」を支援

十一月二十九日(火)、杵築小学校グラウンドにおいて開催された「杵築地区防災フェア」実行委員長 藤本治郎氏を支援しました。

約1,000人の児童らが杵築小学校に避難。

三年目となる今回は、地震発生を知らせる放送を合図に、周辺の杵築幼稚園・小学校・中学校の児童生徒らが教師引率の下、杵築小学校グラウンドに向けて避難を開始し、十五分後には約千人が避難を完了しました。

その後、児童らは防災に関する教育等を受けることとなり、自衛隊や警察、消防等の車両見学や大分地本が展示したパネルの見学を行いました。

また、小六の児童に対して実行委員会が豚汁を準備し、第四十一普通科連隊は炊事車で「普通の炊き出し」を支援しました。

人事往來 平成二十八年度
八月一日付
第一術科学校(江田島)へ
二等海佐 平山 敏弥
西部方面後援支援隊(自衛隊)へ
一等陸曹 遠藤 浩司
総務課(総務課)
八月一日付
募集課長へ
二等海佐 渡邊 泰光
対潜評価隊(船越)から
第四十普通科連隊(別府)へ
一等陸尉 首藤 洋治
大分募集案内所へ
一等陸曹 柳原 和雄
第四十普通科連隊(別府)から
二等陸曹 吉田 秀司
第四十一普通科連隊(別府)から
十二月十一日付
大分募集案内所へ
二等海曹 橋内 一磨
護衛艦はかせ(横須賀)から
定年退官者紹介
陸曹 後藤 富士夫
7月29日付退官(予備自衛官採用) 永年にわたる勤務お疲れ様でした

九月十七日(土)、大分市かんたん公園で開催された「みなと」のフードフェスタ2016にて、第四十三掃海隊所属、掃海艇「うくしま」の艦艇広報を佐世保総監部募集支援係(BMO)と連携して実施しました。

イベント開始に先立ち、同僚の歓迎式が実施され、司令官 鈴木厚志三佐及び主任 角田精一郎三佐が、艦長らに盛大に歓迎されました。

28年度 大分県国民保護共同図上訓練参加

十一月二十四日(木)、大分県庁内において実施された平成二十八年度大分県国民保護共同図上訓練に参加しました。

本年の訓練は、平成三十一年に開催予定の「ラグビーワールドカップ2019」を想定したものであり、県庁十四階の大会議室をラグビー会場に設定して各種ケースを作為し、八階の防災センター内において情報収集し、対処の指示を出す流れで行われました。

別府港で最後のお披露目
護衛艦「くらま」一般公開を支援

九月二十七日(火)、別府港において平成二十九年三月に除籍となる護衛艦「くらま」の一般公開を支援しました。

一般公開に先立ち、別府市自衛艦入港歓迎委員会による歓迎式が行われ、水田英幹艦長、ミス別府から花束が、また市内小学生からは書きが手渡された他、地元別府市出身の乗員立川三曹が入隊して初めての故郷の港に入港できました。

両親も楽しみにしていたので、しっかりと親孝行してきます。と元気に挨拶し、参加者を多くに和ませました。その後実施された一般公開では、平日にも関わらず千五百人の市民が護衛艦からまに乗艦して、別府港における最後の雄姿を満喫していました。

就職援助協力者等の部隊研修
初めて〇式戦車の実射を見学

大分地域援護センターは、十月三十一日(月)、自衛隊退職者雇用企業主等就職の援助協力者に対して、玖珠駐屯地にて「近傍部隊研修」を実施しました。

午前には玖珠駐屯地にて、七四式戦車の体験試乗や装備品の展示を見学。

初めて乗近して見る戦車で、恐る恐る開始した協力者でしたが、動き始めた戦車特有のエンジン音に加えて、直に伝わってくるキヤタピラの振動に大興奮、大きな歓声が上がりました。

午後からは、日出生台演習場に移動して〇式戦車による射撃を見学。

スピーカーから射撃の指示や号令などの緊迫した声を聞き、固唾を飲んで見守る中、戦車が実弾を発射。大音響と瞬間的な風圧に驚きながら、撃ち出された弾が命中する様子を盛んに撮影していました。

参加者は、素晴らしい。実に貴重な体験が出来ました。と大変喜び、自衛隊への更なる理解を深めていた、多くの機会となりました。

日本文理大学学園祭
防災等を広報

十月十六日(日)、第四十一普通科連隊及び海上自衛隊佐世保総監部募集支援係(BMO)と連携して、日本文理大学学園祭「一本木」に参加し、広報活動を実施しました。

日本文理大学は以前より自衛隊への理解が深まり、これまでも多くの入隊・入校者を輩出しています。学園祭会場には、昨年引続き本校理事長の熱い要望から特設会場に「防災展」を設けて、自衛隊の公開や、防災に関するDVDの放映等を実施しました。

特に、本学園祭に初参加となった八二式指揮通信車やBMOが準備した海上自衛隊の各種制服の試着体験が人気を博し、同校の学生らに加えて市民や子供達も多く集まり、コスプレ姿で各車両に乗って写真を撮るなど、会場は大いに盛り上がりを見せていました。

「防災展」を設けて、自衛隊の公開や、防災に関するDVDの放映等を実施

特に、本学園祭に初参加となった八二式指揮通信車やBMOが準備した海上自衛隊の各種制服の試着体験が人気を博し、同校の学生らに加えて市民や子供達も多く集まり、コスプレ姿で各車両に乗って写真を撮るなど、会場は大いに盛り上がりを見せていました。



国東市に誕生した防衛議員連盟会員と関係者

七月二十日(水)、ホテルベイグランド国東において国東市防衛議員連盟の発会式が盛大に開催されました。

県内における防衛議員連盟は、県議会をはじめ、大分市・別府市・由布市・佐伯市・玖珠町等、自衛隊の施設など所在する市町議会には既に結成されていますが、多くの関係者の尽力によって、国東市においても念願の発会となりました。

発会式では、秋国良二会長が「更に自衛隊との協力を強化するとともに、各議員は多くの自衛官をこの国東から送り出すべく、自衛官募集に力を入れましょう。」と力強く宣言され、続いて、木村親次大分県議会議員が「県と市が力を合わせて国東を盛り上げ、自衛隊との関係強化を図りましょう。」と祝辞を述べられました。

本会の発会により、国東市の自衛隊に対する理解がより促進されるとともに、隊員募集や退職自衛官への就職援助につながることが大いに期待されます。大分地本は、「自衛隊と県民との架け橋」として、本会との活動を推進いたします。

市民の防衛認識高揚を大分から
第三回大分県防衛協会「防衛市民講座」開催を支援

九月二十二日(木)、大分オアシスタワーにおいて開催された第三回大分県防衛協会「防衛市民講座」開催を支援しました。

本講座は、市民の防衛意識の高揚を目的に大分県防衛協会が三年前より開催しているもので、本年は「平和国家を目指して」東アジアの安全保障環境と題して、防衛研究所から五名の講師を招いて行われました。

冒険の挨拶で姫野清高大分県防衛協会会長が「防衛研究所が五名の研究員を派遣する講座は全国的にも初めて聞いています。私達国民は、我が国周辺の情勢に目を向けるべき」と本講座の意義を説かれました。

別府港で最後のお披露目
護衛艦「くらま」一般公開を支援

九月二十七日(火)、別府港において平成二十九年三月に除籍となる護衛艦「くらま」の一般公開を支援しました。

一般公開に先立ち、別府市自衛艦入港歓迎委員会による歓迎式が行われ、水田英幹艦長、ミス別府から花束が、また市内小学生からは書きが手渡された他、地元別府市出身の乗員立川三曹が入隊して初めての故郷の港に入港できました。

両親も楽しみにしていたので、しっかりと親孝行してきます。と元気に挨拶し、参加者を多くに和ませました。その後実施された一般公開では、平日にも関わらず千五百人の市民が護衛艦からまに乗艦して、別府港における最後の雄姿を満喫していました。

就職援助協力者等の部隊研修
初めて〇式戦車の実射を見学

大分地域援護センターは、十月三十一日(月)、自衛隊退職者雇用企業主等就職の援助協力者に対して、玖珠駐屯地にて「近傍部隊研修」を実施しました。

午前には玖珠駐屯地にて、七四式戦車の体験試乗や装備品の展示を見学。

初めて乗近して見る戦車で、恐る恐る開始した協力者でしたが、動き始めた戦車特有のエンジン音に加えて、直に伝わってくるキヤタピラの振動に大興奮、大きな歓声が上がりました。

午後からは、日出生台演習場に移動して〇式戦車による射撃を見学。

スピーカーから射撃の指示や号令などの緊迫した声を聞き、固唾を飲んで見守る中、戦車が実弾を発射。大音響と瞬間的な風圧に驚きながら、撃ち出された弾が命中する様子を盛んに撮影していました。

参加者は、素晴らしい。実に貴重な体験が出来ました。と大変喜び、自衛隊への更なる理解を深めていた、多くの機会となりました。

日本文理大学学園祭
防災等を広報

十月十六日(日)、第四十一普通科連隊及び海上自衛隊佐世保総監部募集支援係(BMO)と連携して、日本文理大学学園祭「一本木」に参加し、広報活動を実施しました。

日本文理大学は以前より自衛隊への理解が深まり、これまでも多くの入隊・入校者を輩出しています。学園祭会場には、昨年引続き本校理事長の熱い要望から特設会場に「防災展」を設けて、自衛隊の公開や、防災に関するDVDの放映等を実施しました。

特に、本学園祭に初参加となった八二式指揮通信車やBMOが準備した海上自衛隊の各種制服の試着体験が人気を博し、同校の学生らに加えて市民や子供達も多く集まり、コスプレ姿で各車両に乗って写真を撮るなど、会場は大いに盛り上がりを見せていました。

別府港で最後のお披露目
護衛艦「くらま」一般公開を支援

九月二十七日(火)、別府港において平成二十九年三月に除籍となる護衛艦「くらま」の一般公開を支援しました。

一般公開に先立ち、別府市自衛艦入港歓迎委員会による歓迎式が行われ、水田英幹艦長、ミス別府から花束が、また市内小学生からは書きが手渡された他、地元別府市出身の乗員立川三曹が入隊して初めての故郷の港に入港できました。

両親も楽しみにしていたので、しっかりと親孝行してきます。と元気に挨拶し、参加者を多くに和ませました。その後実施された一般公開では、平日にも関わらず千五百人の市民が護衛艦からまに乗艦して、別府港における最後の雄姿を満喫していました。

就職援助協力者等の部隊研修
初めて〇式戦車の実射を見学

大分地域援護センターは、十月三十一日(月)、自衛隊退職者雇用企業主等就職の援助協力者に対して、玖珠駐屯地にて「近傍部隊研修」を実施しました。

午前には玖珠駐屯地にて、七四式戦車の体験試乗や装備品の展示を見学。

初めて乗近して見る戦車で、恐る恐る開始した協力者でしたが、動き始めた戦車特有のエンジン音に加えて、直に伝わってくるキヤタピラの振動に大興奮、大きな歓声が上がりました。

午後からは、日出生台演習場に移動して〇式戦車による射撃を見学。

スピーカーから射撃の指示や号令などの緊迫した声を聞き、固唾を飲んで見守る中、戦車が実弾を発射。大音響と瞬間的な風圧に驚きながら、撃ち出された弾が命中する様子を盛んに撮影していました。

参加者は、素晴らしい。実に貴重な体験が出来ました。と大変喜び、自衛隊への更なる理解を深めていた、多くの機会となりました。

つくみ港まつりにて
三ヶイル艇「おおたか」と募集広報

七月十六日(土)及び十七日(日)、第六十六回つくみ港まつりにおいて、第三ミサイル艇隊(佐世保基地)所属のミサイル艇「おおたか」の一般公開に併せて自衛隊に親しんでもらおうと、募集・広報ブースを開設して制服試着体験やパネル展示を行いました。

まつりの開会式では、隊司令 藤崎謙二佐が津久見市長ら関係者や市民から盛大に歓迎を受けました。

「おおたか」を見学した高校生は、「海自最速のミサイル艇を間近で見られて良かった。将来は、防衛に関わる仕事を目指したい」と目を輝かせるなど、意義ある広報活動が、意義あふれる見学となりました。

また制服試着体験では、炎天下にも関わらず終日艦炎を見せ、このように艦まつり主催者も大満足の様子でした。

市民の防衛認識高揚を大分から
第三回大分県防衛協会「防衛市民講座」開催を支援

九月二十二日(木)、大分オアシスタワーにおいて開催された第三回大分県防衛協会「防衛市民講座」開催を支援しました。

本講座は、市民の防衛意識の高揚を目的に大分県防衛協会が三年前より開催しているもので、本年は「平和国家を目指して」東アジアの安全保障環境と題して、防衛研究所から五名の講師を招いて行われました。

冒険の挨拶で姫野清高大分県防衛協会会長が「防衛研究所が五名の研究員を派遣する講座は全国的にも初めて聞いています。私達国民は、我が国周辺の情勢に目を向けるべき」と本講座の意義を説かれました。

別府港で最後のお披露目
護衛艦「くらま」一般公開を支援

九月二十七日(火)、別府港において平成二十九年三月に除籍となる護衛艦「くらま」の一般公開を支援しました。

一般公開に先立ち、別府市自衛艦入港歓迎委員会による歓迎式が行われ、水田英幹艦長、ミス別府から花束が、また市内小学生からは書きが手渡された他、地元別府市出身の乗員立川三曹が入隊して初めての故郷の港に入港できました。

両親も楽しみにしていたので、しっかりと親孝行してきます。と元気に挨拶し、参加者を多くに和ませました。その後実施された一般公開では、平日にも関わらず千五百人の市民が護衛艦からまに乗艦して、別府港における最後の雄姿を満喫していました。

就職援助協力者等の部隊研修
初めて〇式戦車の実射を見学

大分地域援護センターは、十月三十一日(月)、自衛隊退職者雇用企業主等就職の援助協力者に対して、玖珠駐屯地にて「近傍部隊研修」を実施しました。

午前には玖珠駐屯地にて、七四式戦車の体験試乗や装備品の展示を見学。

初めて乗近して見る戦車で、恐る恐る開始した協力者でしたが、動き始めた戦車特有のエンジン音に加えて、直に伝わってくるキヤタピラの振動に大興奮、大きな歓声が上がりました。

午後からは、日出生台演習場に移動して〇式戦車による射撃を見学。

スピーカーから射撃の指示や号令などの緊迫した声を聞き、固唾を飲んで見守る中、戦車が実弾を発射。大音響と瞬間的な風圧に驚きながら、撃ち出された弾が命中する様子を盛んに撮影していました。

参加者は、素晴らしい。実に貴重な体験が出来ました。と大変喜び、自衛隊への更なる理解を深めていた、多くの機会となりました。

日本文理大学学園祭
防災等を広報

十月十六日(日)、第四十一普通科連隊及び海上自衛隊佐世保総監部募集支援係(BMO)と連携して、日本文理大学学園祭「一本木」に参加し、広報活動を実施しました。

日本文理大学は以前より自衛隊への理解が深まり、これまでも多くの入隊・入校者を輩出しています。学園祭会場には、昨年引続き本校理事長の熱い要望から特設会場に「防災展」を設けて、自衛隊の公開や、防災に関するDVDの放映等を実施しました。

特に、本学園祭に初参加となった八二式指揮通信車やBMOが準備した海上自衛隊の各種制服の試着体験が人気を博し、同校の学生らに加えて市民や子供達も多く集まり、コスプレ姿で各車両に乗って写真を撮るなど、会場は大いに盛り上がりを見せていました。

別府港で最後のお披露目
護衛艦「くらま」一般公開を支援

九月二十七日(火)、別府港において平成二十九年三月に除籍となる護衛艦「くらま」の一般公開を支援しました。

一般公開に先立ち、別府市自衛艦入港歓迎委員会による歓迎式が行われ、水田英幹艦長、ミス別府から花束が、また市内小学生からは書きが手渡された他、地元別府市出身の乗員立川三曹が入隊して初めての故郷の港に入港できました。

両親も楽しみにしていたので、しっかりと親孝行してきます。と元気に挨拶し、参加者を多くに和ませました。その後実施された一般公開では、平日にも関わらず千五百人の市民が護衛艦からまに乗艦して、別府港における最後の雄姿を満喫していました。

就職援助協力者等の部隊研修
初めて〇式戦車の実射を見学

大分地域援護センターは、十月三十一日(月)、自衛隊退職者雇用企業主等就職の援助協力者に対して、玖珠駐屯地にて「近傍部隊研修」を実施しました。

午前には玖珠駐屯地にて、七四式戦車の体験試乗や装備品の展示を見学。

初めて乗近して見る戦車で、恐る恐る開始した協力者でしたが、動き始めた戦車特有のエンジン音に加えて、直に伝わってくるキヤタピラの振動に大興奮、大きな歓声が上がりました。

午後からは、日出生台演習場に移動して〇式戦車による射撃を見学。

スピーカーから射撃の指示や号令などの緊迫した声を聞き、固唾を飲んで見守る中、戦車が実弾を発射。大音響と瞬間的な風圧に驚きながら、撃ち出された弾が命中する様子を盛んに撮影していました。

参加者は、素晴らしい。実に貴重な体験が出来ました。と大変喜び、自衛隊への更なる理解を深めていた、多くの機会となりました。

日本文理大学学園祭
防災等を広報

十月十六日(日)、第四十一普通科連隊及び海上自衛隊佐世保総監部募集支援係(BMO)と連携して、日本文理大学学園祭「一本木」に参加し、広報活動を実施しました。

日本文理大学は以前より自衛隊への理解が深まり、これまでも多くの入隊・入校者を輩出しています。学園祭会場には、昨年引続き本校理事長の熱い要望から特設会場に「防災展」を設けて、自衛隊の公開や、防災に関するDVDの放映等を実施しました。

特に、本学園祭に初参加となった八二式指揮通信車やBMOが準備した海上自衛隊の各種制服の試着体験が人気を博し、同校の学生らに加えて市民や子供達も多く集まり、コスプレ姿で各車両に乗って写真を撮るなど、会場は大いに盛り上がりを見せていました。